

- 1 会議名 第17回公共施設再配置計画検討協議会
- 2 日時 平成30年10月30日（火）
午前9時30分から午前10時45分まで
- 3 場所 第2・第3委員会室
- 4 出席議員 全議員
- 5 出席者 建設部長 片岡和浩、教育こども未来部長 長谷川忍、都市整備課長 西村忠寿、同主幹 石黒光広、同主任 酒井治、同再任用職員 長瀬公治、学校教育課長 石川文子、子育て支援課長 西井上剛

傍聴者 3名

- 6 事務局出席者 議会事務局長 隅田昌輝、同主任 高野真理子
- 7 会長あいさつ
- 8 執行機関あいさつ 建設部長より
- 9 協議事項

（1）公共施設再配置計画に関する市民説明会の報告について
都市整備課長：資料に基づいて説明。

【質疑】

堀議員：保育園に関して、「吸収検討」を「統合」に統一したいとのことだが、この言葉の使い方は、市民から懇話会を軽視していると言われてもやむを得ないと思う。懇話会が出した結論に、向き合わなければいけないと思うが、どうか。

都市整備課長：説明会で統合について説明したのは、再配置計画検討委員会で議論してきたため。再配置計画については、再配置検討委員会で最終的な結論を出す。こういう意見が出たことを諮って最終的に統合にするのか、意見を組むのか判断することになる。これまで1次評価・2次評価する中で個別のコメントをつけることは想定していなかったもので、そこは委員会で議論して表記をどうするか決めていきたい。

木村議員：北部・仙奈保育園の統合について、決定する前に話し合いの場を設けてほしいという質問に対し、回答が「説明していく」と記載されているが、当日は副市長が、「そのとおりです」、と発言したはずである。「説明」ではなく、発言通り、話し合いを実施していく、と記載すべきではないか。

教育こども未来部長：副市長の前に私も発言したが、近隣で統合しているところを見ると3～4年前から話し合いをしていると発言した。そこは直していく。実際には働く人や地元の意見を聞いて、案を示すといった話し合いが進んでいくと思う。

木村議員：この質問をした人は「約束してください」と強い言い方をしていたの

で、きちんと向き合っていただきたい。なお、市民説明会質疑一覧にはないが、副市長の答弁の中で、保育園送迎ステーションの話題が出た際に、「待機児童対策」と説明していた。そういった位置づけは初めて聞いた。これまで議会にはそのように説明されたことはなかった。

教育こども未来部長：当初より、遠方の園や、きょうだいで別々の園になった場合でも保護者の負担を和らげるといったことで、当初より待機児童対策の一つと言っていたはずだ。また、子育て支援策一つで、他市に先んじた施策と訴えていた。

木村議員：きょうだいで別々の園になった場合でも保育園送迎ステーションのおかげで園に預けることができ、待機児童にならないという、結果的に待機児童対策となることはあると思うが、そういうことは議会で述べた上で、市民説明会で述べていただきたい。

堀議員：送迎ステーションについて、2週間前、東京方面に厚生・文教常任委員会で視察に行った。そこでは200人超えの待機児童対策で、保育園送迎ステーションを始めたそう。いまの説明では想定され得る待機児童を解消するために始めたようだが、その時に待機児童は何人だったか。送迎ステーションを開始して、待機児童は解消されたのか。当時は説明がなかったと思う。

教育こども未来部長：平成27年4月で4人、平成28年は0人、平成29年は4人、平成30年は3人。平成28年4月から送迎ステーション事業を開始したが、効果が出ているかは言いにくい。併せて保育園定員も増やしているので、一概に言えないが、待機児童の解消の一環であるということは当初から言っていたと思うが、確認する。

梅村議員：待機児童が発生しないようにするための対策という捉え方もできる。

木村議員：平成27年は、待機児童は年度当初から4人いたか。いなかったと思うが。

教育こども未来部長：待機児童数は、いずれも4月で、平成25年度及び26年度は0人、平成27年度は4人（0歳児）、平成28年度は0人、平成29年度は2人（1歳児）、平成30年度は3人（0・1・2歳児1人ずつ）。

大野副会長：懇話会において適正配置方針の考え方はまとまっている。市として適正配置方針は、いつ決定されるのか。決定されないと再配置計画が策定できない。

子育て支援課長：最終の詰めをしている。いつと明言はできないが最終段階である。

大野副会長：地域問題研究所への委託はいつまでか。

子育て支援課長：10月末日まで。

大野副会長：委託期間が終わっているのに、次回の本協議会では示してもらえない。

か。

子育て支援課長：出せるようにする。

堀議員：今の太田議員の質疑はおかしい。請願では、公共施設再配置計画が出るのに合わせて、10月末を1月末、そこまで延ばしてもいいのではないかとということでまとまったはずである。委託期間が終わろうと関係なく、議論して決めていくので、請願の趣旨としてまとめたことについて再確認したほうがいいと思う。

太田副会長：委託した成果をつくらなければいけない。方針をつくるために委託している。委託期間が終わったら一定期間までに出てくるものである。委託している意味がなくなる。

堀議員：委託契約の中身は包括的であって、方針案を作るだけではない。最終的に市が定めることであって、契約の中で成果物として（案）がとれたものを持ってくることではないと思う。

太田副会長：契約内容はどうなっているか。

教育こども未来部長：私も10月31日には市の方針を固めると言ってきたが、それは委託期間が31日までだからである。委託の案をもって、市で検討して決める。10月と言っていたが、少し遅れて11月早々には市の方針を固めたい。

木村議員：④保育園に関する事で、「どうなっていくわからないのに」と誤字脱字があるので修正、他の箇所も点検を。

榊谷議員：ここに書かれていないが、2回の市民説明会がどちらも午後7時からだったので、昼間の開催や別の場所で開催することも検討してほしいという意見があった。

都市整備課長：多くの市民説明会を実施してきて、日曜日の昼に開催すると、出かけたりするのでやめてほしいという意見があった。あえて夜の時間帯にすれば参加が可能だろうと考えた。意見があったことは参考にする。場所は収容人数や中心部でというバランスを考えて生涯学習センターにした。

黒川議員：再配置計画決定までの今後のスケジュールを確認したい。

都市整備課長：11月末に公共施設長寿命化計画の説明と、公共施設再配置計画の冊子になった案を示す。また、11月29日の公共施設再配置計画検討委員会にも同様のものを示す。12月末の本協議会で意見をいただく場を設けて、1月パブリックコメントに入る。

須藤議員：以前にもらった作成スケジュールでは、11月中にモデルケースの最終確認、施設ごとの再配置方針、事業実施時期、ロードマップの最終確認、パブリックコメント用の案の確認となっている。最終決定ではなくて、案を出すということか。

都市整備課長：パブリックコメント前なので、最終案である。

鈴木会長：市民説明会を聴いていて、保育園の「統廃合」に対して総じて悪いイメージを持たれている。統合していいものを作るというイメージができていない。老朽化した現在の施設を建替えてくださいという請願が出てもいいくらいなのに。統廃合でより良いものが出来るというイメージが出来ないから、反対意見や残してくださいという意見が出るのではないかと。質は変えないと言っても伝わっていない。こんな施設で、こんなに良くなるというイメージをもっと伝えてみてはどうか。堂々巡りの議論が繰り返されてしまうので、説明の仕方を考えなければいけないと思う。

教育こども未来部長：統合したらバリアフリーになること、駐車場が増えること、機能アップすること等、折に触れて言っている。子育て支援課の思いでは、絵本図書館を併設したいことや、一時保育を始めたいことなど、まだ決まっていないことを発言することはできなかった。一方で、夢のあることをもっと言っていると、2名の方に言われたことは反省すべき点。

堀議員：そのとおりで、夢のあるモデルケースを提示して、付け加えて、保育の質というのは、保育士の配置基準だけではないし、加配だけではない、5つのC、保育の質とは何かを市民に説明して納得してもらわないと、また同じことになると思う。ハードだけではなく質も併せてお願いしたい。

大野議員：統廃合するときは公設公営でやると言ってくれれば納得するが、公設民営ではないかと疑われている。今の保育の質がいいと思っているので。

榊谷議員：同様にあゆみの家も統廃合の対象になっているが、今でも狭いと言われているあゆみの家が統廃合すると、今より機能性が良くなるのか、先生や保護者に説明しながら意見を聞いているか。

黒川議員：今、聞いても約束できないこともある。大切なのは、公表・公開のもとで話し合う場を設けること。今の時点でこういった意見に対して具体的な回答を言われても、将来ほんとうに検討しなければいけないものを、現時点でどうなんだと言っても無理だと思う。市民の、自分たちの意見を聴いてほしいというのが率直なところだと思う。先日、副市長が、決定の前に話し合いの場を設けますと言ったのを信じなくてはならないのではないだろうか。

梅村議員：市民参加の手続きを色々実施されているが、周知するのが難しい。秦野市では、公共施設再配置だけのニュースちらしを作って定期的に新聞に折り込んでいます。広報紙は決まったことを広報しているが、計画段階でも出すことは必要だと思う。保育園のことでこんなに意見が出るということは、保育園でどのように周知しているか疑問がある。保育園だよりがあれば出してほしい。いろんな保護者の意見が出てくると思う。こまめにちらしでも発信していくべきだと思う。また、秦野市では、Eメールメンバーで広く意見をとる

懇話会のやり方がある。市民周知は難しいが試行錯誤していただきたい。

鈴木会長：いろいろ意見が出たので参考にしてほしい。

教育こども未来部長：送迎ステーションの件で、議会に説明されていないと言われたが、平成29年度新規主要事業説明書で、効果・目的に待機児童解消について明記している。

（２）公共施設長寿命化計画の基礎資料について

都市整備課主幹：資料に基づいて説明。

都市整備課長：屋根については、登って確認できない部分も多く、修繕履歴や前回の調査をもとに判定している。第1～4期あるが、約5年ごとに調査を行って計画を見直す参考資料としたい。

【質疑】

鈴木会長：学校施設の長寿命化の時は、A・B・Cの評価をして点数化していたが、同じように実施する予定は。

都市整備課長：件数が多いため、健全度判定のみの予定。

（３）その他

特になし

10 その他

鈴木会長：最終的なまとめに入る段階にきている。次回協議会で公共施設再配置計画の案と公共施設長寿命化計画の案が出される。協議しながら最後のまとめに入りたい。

次回日程：12月3日（月）本会議終了後（午後1時30分予定）

（公共施設再配置計画検討委員会が開催されてから本協議会を実施。）